



# 挑戦

## 和歌山箕島球友会

軌跡・①

30日に大阪市の京セラドーム大阪で開幕する第41回社会人野球日本選手権大会(毎日新聞社など主催)に、和歌山箕島球友会が2年ぶりに出場する。西武プリンスドーム埼玉(所沢市)で先月あった全日本クラブ野球選手権大会で優勝し、切符をつかみ取った。4度目の日本選手権で初勝利に挑むクラブ王者の今季の軌跡をたどる。

【高橋祐貴、倉沢仁志】

多くの選手が「自信になった」と振り返る大会がある。強豪と渡り合った今年5月の第86回都市対抗野球大会近畿地区2次予選だ。

初戦は、都市対抗優勝2回、準優勝1回を誇る古豪・新日鉄住金広畑(兵庫県姫路市)と対戦。0-0で迎えた六回、2死から四死球などで満塁としてチームの精神的支柱、水田信一郎選手(27)が口火を切り、3連打で一気に5点を挙げた。先発の桐原勇人投手(23)も、六、八回以外毎回走者を背負いながら、要所を締めて完封。7-0で圧勝した。準々決勝は、後に本大

## 転機の都市対抗2次予選

◆都市対抗近畿2次予選(5月)成績◆

※バッテリー、長打は和歌山箕島球友会のみ。○は勝ち投手、●は負け投手。

▽1回戦(17日) 7-0新日鉄住金広畑 ○桐原一水田 △三塁打 林、岸  
▽二塁打 林

▽準々決勝(26日) 7-8日本生命寺岡、●北面一水田 △二塁打 平井、林

▽第3代表決定トーナメント1回戦(29日) 1-11日本新薬(八回コールド) ●桐原、辻、北面、高橋祐一水田、榊原 △二塁打 高橋孝

▽第4代表決定トーナメント2回戦(30日) 1-2ミキハウスREDS(延長十回) ●寺岡一水田

会で優勝した日本生命(大阪市)とぶつかった。三回に山下龍二選手(26)の適時打などで2点を先制し、四回には林尚希選手(25)が1死満塁から走者一掃の適時二塁打を放つなど、六回を終えて7-2とリードする展開となった。

だが、七回に守備のミスから試合の流れは一転。先頭打者を悪送球で出塁させ、内野安打や失策で満塁とされると、走者一掃の適時三塁打と暴投などで1死も取れないうちに同点に追いつかれた。八回には逆転を許し、結局、相手より多い10安打を放ちながら1点差で惜敗した。

「私も含め、多くの選手がいける、と思ったはず。そこに甘さがあった。」「私も含め、多くの選手がいける、と思ったはず。そこに甘さがあった。」

手(25)が1死満塁から走者一掃の適時二塁打を放つなど、六回を終えて7-2とリードする展開となった。

「西川忠宏監督(54)えられるとも思った」とは、かつて箕島で指導を受けた高校野球の名将、(26)も「若手が試合を重み締めた。」「勝つチームよりも、負けないチームを作りなさい」

次の目標は日本選手権の出場権。7月のクラブ選手権西近畿予選は、2戦とも11得点のワールド勝ちで突破した。「日本生命などの企業チームに挑み、今度は勝つ」。挑

「西川忠宏監督(54)えられるとも思った」とは、かつて箕島で指導を受けた高校野球の名将、(26)も「若手が試合を重み締めた。」「勝つチームよりも、負けないチームを作りなさい」



都市対抗近畿地区2次予選の新日鉄住金広畑戦。六回裏2死満塁、水田選手の適時打で生還し、喜び合う岸田選手(左)と平井選手—兵庫県明石市の明石トーカ球場で5月17日

# 「戦える」自信芽生え